

# おはよう



社会福祉法人 愛和会  
ローズコミュニティ緑地

contents

0102 トピックス

今年はどんな年になるでしょう

0304 部門紹介

介護老人保健施設きんもくせい

- 入所部門
- 通所リハビリテーション部門
- 訪問リハビリテーション部門

05 部門紹介

そっと支える  
その人らしい“いつもの暮らし”を

06 活動報告

多機能型事業所あすなる

07 取り組み

「ほっと保健室」を開設しました



# 今年はどうな年になるでしょう

愛和会総施設長 伊藤 成規

昨年の「おはよう新聞」では、巳年について「蛇は医療のシンボルです」という話を書かせていただきましたが、今年も干支シリーズ第二弾にさせていただきます。

2026年は、十干の「丙(ひのえ)」と十二支の「午(うま)」が重なる、60年に一度の丙午(ひのえうま)の年です。

まずはグーグルAIで引いてみますと…、

## 1 2026年(丙午)の性質と意味

最強の「火」のエネルギー

丙は「火の兄(陽の火)」、午も「火」の属性を持つため、天も地も火という、60通りの干支の中で最も情熱的で激しいエネルギーが巡る年とされています。

躍動と発展

停滞していた物事が一気に動き出し、新しい流れや変化が生まれやすい年です。これまで躊躇していた挑戦や、大きな決断をするのに適したタイミングと言われています。

「見られること」が鍵

コツコツと地道に努力するより、表舞台に出て評価を受けることで成長が促される年です。

## 2 社会的な注目点(出生数への影響)

歴史的背景

前回の1966年(昭和41年)には「丙午生まれの女性は気性が激しく夫を食い殺す」という迷信が広まり、出生数が前年比で約25%減少しました。

2026年の予測

現代では迷信そのものは否定されていますが、少子化が進行する中で、この「丙午」がさらなる出生数減に繋がるかどうかが注視されています。





2026年の出生数が60万人を割り込む可能性も懸念されています。

### 3 開運のための過ごし方

#### 新しい挑戦

太陽のような強いエネルギーを味方につけ、前向きでスピード感のある決断をすることが運気を高めます。

#### 視線を意識する

鮮やかな色の服を着る、SNSで発信する、姿勢を正すなど、他者の視線を意識した行動が自分を磨くことに繋がります。

2026年は、激動や変化を恐れず、その強いエネルギーを自分の成長や新しいステージへのステップアップに変えていく姿勢が大切になる一年です。

と、中々に激しい年になりそうです。

しかし総合介護施設である私たち愛和会におきましては、出来るだけ穏やかに一年を過ごしたいと言うのが本音です。

利用者さんたちが無事に健康を維持され、明るい毎日を送られるようサポートするのが私たちの使命ですので、どうか無事でありますようにと願うばかりです。

もともと国内外において社会情勢は混沌としており、おとなしく念じているばかりにはいきません。

気候変動や災害は私たちの生活や仕事に直接影響が及びますので、常に注意を払い備えを怠らないことが重要です。

愛和会では毎年大規模な防災訓練を行っていますし、食料や薬品の備蓄も行っています。また広大な緑地公園に面しているのも大きなメリットです



介護分野においても新しい発展や機械・技術の進歩がありますので、それらを積極的に取り入れて、守りつつ攻める姿勢で丙午の今年を乗り切っていく所存です。

介護老人保健施設

きんもくせい

きんもくせい  
入所部門



介護老人保健施設きんもくせい入所部門では、病気や障がいにより要介護状態である利用者様が、住み慣れた地域や自宅等で再び生活できることを目指して、多職種協働でサポートさせていただいています。

また、当施設では常勤医師・看護師が勤務し、連携を図りながら、病気の再発や重度化予防ケアにも力を入れて取り組んでいます。

新たな取り組みとしては、大阪府から推奨されているアドバンスケアプランニング（人生会議）を、きんもくせいでも広めていけるよう、入所面談時、入所後の面談で「もしもの時、最期を過ごしたい場所はどこですか」「重篤な病気になった際、どのような治療を希望されますか」「急変時に心肺蘇生を希望されますか」等の内容について、ご本人・家族様の思いを聴く時間を設けています。

このような、利用者様・家族様の思いに寄り添うケアをこれからも提供できるように、職員一丸となり前進していきます。今後ともよろしくお願いいたします。

入所部門 科長 三木 さつき



きんもくせい

通所リハビリテーション部門



フロア拡大改修工事

老健きんもくせい通所リハビリテーションでは、昨年度を大きく上回る多くのご利用者様にお越しいただいています。

ご利用者数の増加に伴い、リハビリスペースやフロアスペースにやや圧迫感が生じていました。



そこで、フロア拡大を目的とした改修工事を進め、10月26日に無事完了いたしました。

今回の改修により、リハビリスペースおよびフロアスペースが拡大され、これまで以上にゆとりある環境でレクリエーションやリハビリに取り組んでいただけるようになりました。

今後も、皆様により充実した時間をお過ごしただけよう、取り組みを進めてまいります。

通所リハビリテーション部門  
科長 加藤 雅章

介護老人保健施設きんもくせいでは、地域の皆さまが住み慣れたご自宅で安心して生活を続けられるよう、訪問リハビリテーションを実施しています。

ご自宅へ理学療法士・作業療法士が伺い、身体機能の維持・向上、転倒予防、日常生活動作（立つ・歩く・着替える等）の練習、住環境への助言など、利用者さま一人ひとりに合わせたリハビリテーションサービスの提供を行います。

また、病気や入院後の体力低下に対する回復支援や、ご家族の介護負担を軽減する



きんもくせい  
訪問リハビリテーション部門

ための動作方法のアドバイス、自主トレーニングの提案も行っています。

実際の生活場面で取り組むことで、「できること」を無理なく増やしていけるのが訪問リハビリの大きな特徴です。

「最近つまずきやすい」「動くのがしんどい」「家での生活を続けたい」などのお悩みがあれば、どうぞお気軽にご相談ください。

地域の皆さまのいきいきとした暮らしを、これからも支えてまいります。

訪問リハビリテーション部門  
佐藤 公則



そっと支える

その人らしい “いつもの暮らし” を

ケアプランセンターあいわでは、ご利用者様が住み慣れたご自宅で、その方らしい“いつもの暮らし”を続けていただけるよう、日々の小さな変化にも目を向けながら寄り添った支援を大切にしています。地域の公的機関や他の事業所ともこまめに連携し、困りごとがあれば気軽に相談していただけるよう、安心のサポート体制を整えています。

法人内には訪問介護・訪問看護・デイサービス・特別養護老人ホーム・介護老人保健施設、障がい施設など、さまざまなサービスがそろっており、状況に応じてスムーズに連携できるのも大きな強みです。

また、法人全体で研修や学びの場が充実しているため、職員一人ひとりが力を伸ばせる環境も整っています。

社会福祉法人として、地域貢献事業にも職員が積極的に参加し、地域とのつながりも大切にしています。

事業所には10名のケアマネジャーがおり、そのうち7名が主任ケアマネジャーです。年代や経験はさまざまですが、自然と声を掛け合い、相談し合える温かい雰囲気があります。

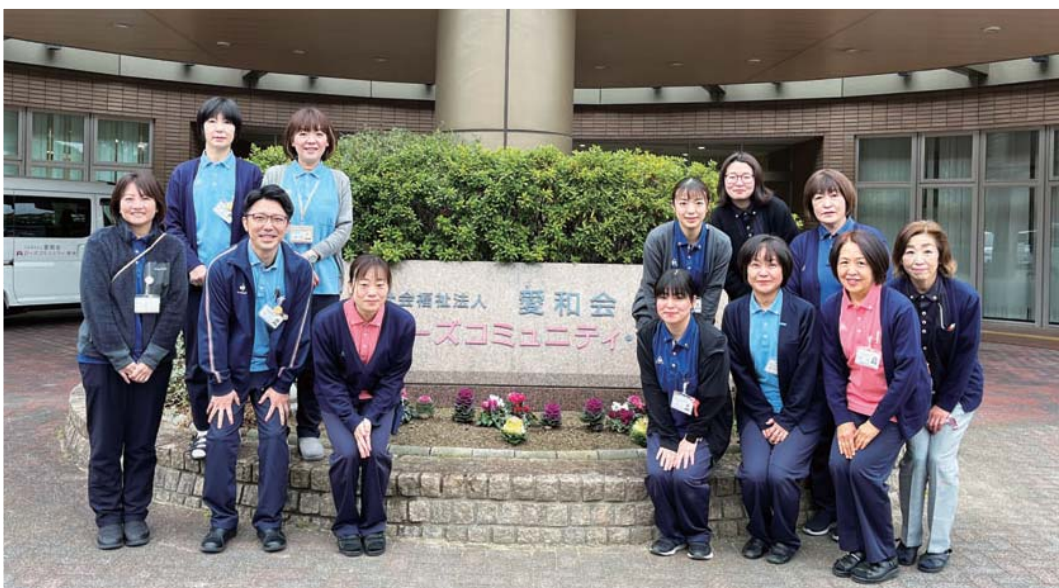
笑顔が多く、互いの強みを活かしながら成長していける、明るく前向きな職場です。

これからも地域のみなさまとつながりながら、「相談して良かった」「ここなら安心できる」と感じていただけるよう、一人ひとりの暮らしに寄り添ったケアを丁寧に行っていきたいと思えます。

介護の事はお気軽ににご相談ください。

ケアプランセンターあいわ

06-6866-2944



執筆者 ケアプランセンターあいわ 管理者 金山 裕己

# 多機能型事業所あすなる

(就労継続支援B型)



多機能型事業所あすなる(就労継続支援B型)では、就労を目指していたり福祉的就労の勤め先として8名のご利用者様が通所されています。通所されているご利用者の年齢も様々です。

ご利用者様の利用目的として、働く事の喜びを大切にし、日々の作業を実施しています。また、就職に向けた技術の向上や、社会人としてのマナーの科長取得などを目指しています。



作業としては主に館内の1階多機能型事業所あすなるのエリアの清掃や職員が着用しているユニフォームの洗濯作業に取り組まれています。また、不定期ですが書類の折り込みや生活介護の作業のお手伝いなどに入る事もあります。

作業以外では施設外実習もあります。豊中市役所から主に豊中市在住の方を対象とした実習の案内があり、実習内容とご利用者様のニーズが合えば申し込みを行い選

考を通過すれば参加して頂きます。普段の慣れ親しんだ仲間や職員とはなく、初めて顔を合わせる他事業所のご利用者様や担当職員の方との作業を通して「働く」とはどういうことかをいつも以上に意識して頂く事が目的となります。実習を経験する事で就労への意欲が高まり、企業などの就職を見据えた体験実習を行い、就職に結びつくというケースもあります。

今後もご利用者様に、多機能型事業所あすなる(就労継続支援B型)での作業を通して働くことの大変さや達成感を感じながらも充実した生活を送れるよう職員一同取り組みでいきます。

# 「ほっと保健室」 を開設しました。



今年度より、地域住民が気軽に医療職へ相談できる場として「ほっと保健室」を開設しました。

地域包括支援センターでは、かかりつけ医がいない、受診をためらい重症化してから相談が寄せられるケースが多く見られていました。

こうした状況を踏まえ、早期相談による重症化予防を目的に、地域の力を活かした身近な相談場所として設置に至りました。

立ち上げにあたっては、地域の自主グループへ看板制作を依頼し、福祉用具事業所の協力を得て健康

測定機器をレンタルするなど、住民や地域事業所との連携を図りました。

さらに、豊中市で広く取り組まれているパワーアップ体操が下肢筋力を中心とした内容であることから、上半身の動きを中心にした新たな音楽体操を作成しました。パワーアップ体操と組み合わせることで、全身をバランスよく動かすことができ、より効果的な運動習慣づくりにつながることを期待しています。作成したDVDは全自主グループへ配布し、地域全体で活用できるようにしました。今後は他の地域包括支援センターにも共有していく予定です。

お披露目はローズコミュニティや高川複合施設で開催し、その後はドラッグストアや銀行と共同開催しました。骨強度・貧血・体組成・血管年齢などの測定機器を設置したことで、多くの住民が気軽に参加でき、アンケートでは「身近な場所で相談できて安心した」との声が多数寄せられました。

執筆者 緑地地域包括支援センター 奥井 颯希



今後は協力企業をさらに広げ、より多くの住民が気軽に相談できる場として継続・発展させていく予定です。  
また、音楽体操の活用や自主グループとの連携を深め、地域全体の健康意識向上と重症化予防につなげていきたいと考えています。

